

釧路市教育委員会 令和元年第13回6月定例会会議録

1 日時：令和元年6月25日（火）13時30分から14時30分まで

2 会場：釧路市教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員

（事務局）

高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、大山教育指導参事、
北澤学校教育部次長、江縁学校教育部次長、藤岡総務課長、
小野施設計画主幹、外崎青少年育成センター所長、森教育調整主幹、
工藤生涯学習部次長、澤口生涯学習課長、永井美術館長、
佐藤博物館長、古賀動物園長、牧野阿寒生涯学習課長、
伏見音別生涯学習課長

4 議事録署名人 松尾委員、種村委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会の実施について
- (2) 「ひがし北海道クレインズ」への支援について
- (3) 第92回日本学生氷上競技選手権大会釧路市実行委員会の設立について
- (4) ホストタウンの取り組み状況について
- (5) 企画展「あなたとカラスのおつきあい」の開催
- (6) 動物園におけるドローンを用いた記念動画撮影事業について
- (7) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会の実施について

(藤岡総務課長)

今年で6回目を迎える「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」の開催については、今年度、阿寒、音別地区を含む市内6カ所（釧路小学校、鳥取西小学校、音別小学校、桜が丘中学校、阿寒中学校、愛国小学校）で昨年同様、午後6時30分からを予定している。

懇談会の開催要領や意見交換会のテーマ等は現在検討中であるが、昨年の反省も踏まえ意見交換の進め方を十分に検討しながら、家庭・地域と共に考える懇談会であることを踏まえ、市P連、連合町内会それぞれと連携を図ってまいりたいと考えている。

また、周知方法については、地域へは連町だよりへの折込みを7月25日に行い、8月上旬をめどに配布、市P連へは7月15日号の市P連だよりに掲載し、市ホームページへの掲載を含め、広く周知に努めて参りたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

昨年は教育推進基本計画の初年度という事で、その流れの説明という趣旨もあったと思う。毎回参加していて感じるのは、本音で意見交換できる時間を多めにとった方が、参加する人も参加して良かったという思いで帰ってもらえると思う。いざ意見交換すると言っても、なかなか出てこないと時間を持て余してしまう。そして前段の説明が長くなってしまうということがあったと思う。そのあたりを食いつきやすいテーマを設定して出来るだけ意見交換の時間を取ってもらいたい。

この教育懇談会が始まった当初は、ブロックごとにブロック内で会場校が替わっていたと思う。先生方、校長先生、教頭先生を中心とする先生方の意識として、自分のブロックの懇談会には自分も出なければならないという意識で参加してもらえていたような気がする。ここ1～2年は、会場校ではないから参加しなくてもよい、という先生方も少しずつ多くなってきている気がする。保護者、地域の方々の参加を募る方向と合わせて、ブロック内の懇談会には自分たちは出る、という先生方の意識を喚起する必要もあると思う。校長会、教頭会でそのあたりをPRしてもらえると良いと思う。校長先生ですら同じブロックの懇談会に欠席されているという方もいるので、見直しが必要だと思う。

(松尾委員)

前段の説明が長く、硬い内容なので聞いている方々が少し飽きてくるのが見えるような気がする。そこは仕方ないにしても、意見交換の席でもう少し柔らかい内容、本当に今自分たちが話したい内容を見つけてもらわない事には、食いつきも悪いと思うし、昨年、当てて意見を求めたのは、事前に何も準備していないと答えられないこともあるし、急にではなく何

か考えた方がいいと思う。保護者の方に意見を求めるのであれば、お父さん、お母さんが食いつく内容で、この話であれば是非行って話をしたい、聞きたい、というものになれば意見も自ずと出てくると思う。今までも毎年いろいろやってきたが、なかなかその部分で出てこないというのは苦しいところではあるが、ざっくばらんに皆さんと意見交換できるような場になったら良いと思う。

(小出委員)

保護者の中には行けばいいから、という感じで来ている人たちもいたので、意見を求められるとっていない人たちも結構いると思う。なので、事前にこのテーマで話し合いますというのを提示して、意見も言ってください、ということをもっと周知する必要がある。それにはテーマ設定が大事である。突然当てられても、カバンが重いだとか、部活動のことだとか、意見のある方は手を挙げてちゃんと発言されている方はいるので、PTAの方などが何を今問題に思っているか、ということ調べてテーマにすると良いと思う。

(山口委員)

急に当てられて発言に窮する保護者がいて、その噂が広まると当てられるから行きたくない、ということも出てくると思う。また、例えばカバンが重いという話だと、置き勉をどうするかというテーマでやりますと言うと、保護者サイドの意見、学校の管理体制としての意見という事で、結構本音がでると思う。そのような食いつきやすいテーマの方が良いのではないか。

(岡部教育長)

テーマを決めてまずは周知をしていかなければ、という事が今共通の話だったと思うので、再度精査をして周知していきたいと思う。

【公開案件】 報告事項

(2) 「ひがし北海道クレインズ」への支援について

(工藤生涯学習部次長)

去る5月29日に「ひがし北海道クレインズ」の運営会社「東北海道アイスホッケークラブ合同会社」の田中 茂樹代表ほかチーム関係者から、アジアリーグへの加盟について、近く正式承認予定である旨の報告をいただくとともに、当市へ協力要請があったところである。

その内容としては、「釧路市とひがし北海道クレインズの包括連携協定締結の依頼」、「ひがし北海道クレインズの活動環境整備への協力の要請」、「ひがし北海道クレインズの運営状況の定期的な報告会への参加」の3点について要請があり、チームの活動環境整備については、練習の際のリンク使用料を免除することとし、併せて運営状況の定期的な報告会への参加について承諾する旨を付記し、6月14日付で正式に書面にて回答したところである。また、6月26日に包括連携協定を締結することとした。

「ひがし北海道クレインズ」は、釧路市を拠点に地域に根差したチームづくりを目指しており、「氷都くしろ」のシンボルであった日本製紙クレインズの歴史と伝統を受け継ぐチーム

である。今後も地域に愛されるチームとしてご活躍頂けるよう、市としても関係団体と連携して進めていきたいと考えております。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

方向性としては、釧路市民として良い方向で落ち着いてくれたと思う。23日(日)の鳥取小学校の運動会にもクレインズの選手が3名来て、一所懸命活動していた。地域貢献をするというチームとして選手としての意識は、また気持ちを新たにやってもらえるのではないかなという気がしている。期待している。釧路市民としても出来るだけ協力したいと考えている。

今までスポンサーだった日本製紙の今後の関わりが、どういう形でチームにサポートしてくれるのか、何か具体化しているのかという事と、前回の教育委員会で次長が話していた、NPO法人東北北海道スポーツコミッションを立ち上げている中島さんは、今までクレインズの試合をネットで情報発信するなど、会場に来て一緒に活動しているが、あの方々のチームへの関わり方については、何か具体的なイメージとしてあがっているのか。

(工藤生涯学習部次長)

日本製紙(株)の新生クレインズとの関わりについては、当面2年間ほどは社員選手については派遣という形で給料を面倒みるという話があって、それ以降については2年という言い方をしているので、収支が合う独立した組織を作っていかなければならないのではないかなと思う。当面2年間は選手の派遣と合宿所と会館の貸与というところは日本製紙側が支援するという話はいただいている。

NPO法人東北北海道コミッションとの関わりについては、今までNPO法人でのインターネット中継をやっていたが、新生クレインズについては新たな別のコンテンツを使ったインターネット中継を考えているようなので、東北北海道コミッションとはそのあたりは関連がないと思っているが、定期的な報告会では広く募るということだったので、おそらくその中にはこの組織が入っているのではないかなと思っている。不確かな情報しかないが、私の知っている範囲ではそのようになっている。

(松尾委員)

クレインズの選手はチームとして地域貢献の意識が高いと思う。小学校を回って挨拶運動にも何名か来て下さり、一緒に立って子どもたちに挨拶してくれたりしていた。残念なのは、クレインズの選手の顔を知らない子どもが多いことである。クレインズの選手だよと言うと喜んでそばに行って、握手を求めたりしているので、もしそういう事がまたあれば、ただ選手がそこに立つだけではなく、クレインズの選手なんだよ、と教えてあげるべきである。そうすると子どもは喜ぶと思う。せっかく来てもらっているのに、やっぱり子どもたちも喜ぶし、興味も沸くと思うので、そういう事も出来ることとしてあるのではないかなと思う。学校側にも声をかけてもらいたい。クレインズの方がまたやって下さると言う事であれば、こち

らから近寄っていくのも必要なことだと思う。

(工藤生涯学習部次長)

チーム側にも今の話を伝えたいと思う。

【公開案件】 報告事項

(3) 第92回日本学生氷上競技選手権大会釧路市実行委員会の設立について

(工藤生涯学習部次長)

本年12月25日(水)から29日(日)までの5日間、第92回日本学生氷上競技選手権大会のアイスホッケー競技会を、また、令和2年1月5日(日)から、7日(火)までの3日間、スケート競技会を市内各氷上競技施設において実施する。当市において本大会を実施するのは、平成26年の第87回大会以来、6年ぶり6回目となる。

運営にあたり、地元競技団体をはじめ官民挙げての準備が必要であることから、7月22日(月)に地元実行委員会の設立総会を開催予定である。

なお、ショートトラック競技については、日本スケート連盟と日本学生氷上競技連盟との協議の結果、有望選手が海外遠征中であることや、競技役員の確保が難しいことから、本年10月25日から29日の日程で長野市帝産アイススケートトレーニングセンターにおいて開催されることとなり、当市における競技の実施は見送られることとなった。

今回の大会を契機として、大学関係者の皆様に対し、施設環境の充実と合宿地としての魅力を広く発信し、新規団体獲得を推進させ市内各氷上競技施設の有効活用につなげてまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(松尾委員)

国体の時の応援体制は素晴らしかったと思うので、インカレでも出来るだけの事はして、おもてなしをしてあげたいと思っている。

【公開案件】 報告事項

(4) ホストタウンの取り組み状況について

(工藤生涯学習部次長)

平成31年2月、釧路市教育委員会定例会において、本年4月を目途にベトナム文化スポーツ観光省スポーツ総局 代表団が来釧し、事前合宿に係る基本合意書を締結する予定であると申し上げていたが、同局の上層部の人事異動など先方の都合により予定を繰り延べしており、合宿実施前までに締結式を行いたいとの意向が示されているところである。

また、合宿の実施については、本年は8月10日(土)から23日(金)の予定で、ベ

トナムのパラ・パワーリフティング並びに、パラ陸上競技の選手・コーチ及び関係者総勢17名で来釧する予定となっており、来年については東京パラリンピックの直前合宿として、出場権を獲得した選手が来釧する予定となっている。

今後は、各競技の予選会が順次実施されると聞いており、当市において良い練習をしてもらえるよう万全の受け入れ態勢を整えていく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

日程はいつ頃、決まるのか。

(工藤生涯学習部次長)

相手とメールでやり取りしており、その都度日程が若干動くが、最終のメールのやり取りでは、8月4日(日)から6日(火)くらいで釧路に入ってきて、基本文書の締結をしてその足で長崎に行き、向こうでも合意書の締結をしてそれを追うように選手団が10日(土)から入ってくる。というような段取りを今のところ組んでいる。しかし、その都度、2、3日前に行ったり、後ろに行ったりという事があり、フィックスではないというところがある。直前8月10日の合宿の実施前までにといい、言い方にさせていただきたいと思う。

(山口委員)

ホストタウンとして、パラの方の選手団が合宿練習に来ると思うが、オリンピックの合宿などはホストタウンの中に含まれないのかということと、どこか障がいを持った人たちが自分の目標のために一生懸命頑張る姿を一般市民が見るといい刺激になると思うし、釧路市近郊、あるいは北海道に住んでいる何か障がいを持って生き方に前向きになれてない人方が、こういうものを見ることによって、いい刺激をもらえるのかなという気がする。働きかけは、一般市民に対してこの機会をどう生かすのかというPRと、障がいを持った方々にどういう手立てでPRしていくのか、という事も考える必要がある気がする。

(工藤生涯学習部次長)

ホストタウンには、ベトナムを相手国とするホストタウンが日本に6自治体ある。その自治体の中での取り合いのようなものがあり、今圧倒的に先行しているのが長崎県長崎市をはじめとする自治体連合である。オリンピック競技の大半はそちらの方でやる。という事で協定が結ばれる。その隙間を縫うように、釧路がパラリンピックというところを先行してベトナムと基本合意書の締結をするというところで、その他については、釧路、長崎以外はまだ基本合意書の締結には至っていないと思う。また、せっかく障がい者が来て頑張っている姿を見てもらってはどうか、という事で、前回1月に釧路に来た時も、障害者福祉施設が鳥取にあるが、そちらで合宿をして、その時には一般市民とのふれあいの時間帯を設けた。本当に反響が良くて、障がい者の方も含め健常者の方も含め、100名規模で参加、見学に来ていただいた。実際にパラ、パワーリフティングを体験していただくという事もやっており、凄く反応が良かった。今回の合宿の期間中にも、いろいろな市民とのふれあいの機会や、障

がい者とのふれあいの機会を作っていきたいと思う。

(松尾委員)

釧路根室圏広域スポーツセンター協議会でやった、パラ、パワーの講演会を聞いて実技も見て、凄く感動した。ああいう姿を子どもにも見せたいと思ったし、釧路にもそういう方がいらっしゃるので、ベトナムから来たそういう方との交流などができるのではないかと思った。パラの練習風景を見ることもないし、どこにどんな方がいるのか、ほとんど分かっていない状態だと思う。サンアビで車椅子バスケットなどをやっているが、それもよく分かっていない事が多いので、パラスポーツに関して、もう少し皆さんに機会を求められるような交流会などがあればいいなと思う。

(工藤生涯学習部次長)

松尾委員には釧路根室圏広域スポーツセンター協議会の講演の中で、実際に帯広に在住している日本のパラ、パワーリフティング、日本代表候補である斉藤選手も1月に一緒にベトナムと合同合宿していただいた縁で、講演会を釧路で開催した際に参加していただいた。皆さん最初に公演を聞いて、何か質問ありますか？と言っても、誰も何もしゃべらなかったが、実際に実技をみると、いろいろな事を質問しており凄く盛り上がった講演会だった。おそらく、そういう事を市民へも広く周知していくことが大事だと思うので、是非そのような機会を作っていきたいと思う。

(山口委員)

オリンピック、パラリンピックの後、日本が世界からどう見られるか？という、非常に大切な場面ではないかと思っている。オリンピックは盛り上がる、それが終わってパラリンピックが開会されたときに、国民の熱気も無く参加者も観客も盛り下がっている、というのを日本として世界に見せたら、なんだ日本はというようになるので、国レベルの話なのでどうしようもないが、そうならないような仕掛けも大切なのではないかと思う。

(工藤生涯学習部次長)

オリンピック推進事務局ではパラリンピックの成功が東京オリンピックの成功になると、はっきり言っている。実は、いろいろなパラリンピックに関わる事業をオリ、パラ推進事務局の方からやらないか、という話が出ている。近々、まだ正式に採決はされていないが、パラリンピックの横連携事業ということで、同じくベトナムのパラリンピックを招致している自治体同士で子どもたちの横連携事業を計画しており、早ければ今年度夏くらいにはベトナムからの選手を呼ぶ、同じパラリンピックのホストタウンになっている自治体からも選手を呼ぶのでスポーツをやりながら皆さん交流しましょう、という内容で事業の展開を考えている。なんとかパラリンピックが盛り上がるようなことを考えていきたいと思う。

【公開案件】報告事項

(5) 企画展「あなたとカラスのおつきあい」の開催

(佐藤博物館長)

企画展の会場は博物館1階マンモスホール、開催期間は6月29日(土)～9月29日(日)となっている。また、期間中に3つの関連事業を実施する。

まず、8月24日(土)に講演会「カラスと人間生活―さまざまなかかわりを探る―」を開催する。講演者は、カラス研究の大家である慶応義塾大学自然科学研究センターの樋口先生である。また、小学生から大人まで参加いただける学芸員による全3回のショート講座「カラスマスターへの道」を実施する。

このほか、地域の方に気軽に参加いただけるカラスのフォトコンテストも実施する。フォトコンテストについては、すでにホームページやSNSなどを通じて写真の募集を開始しており、応募のあった写真は博物館で展示する予定である。また、博物館職員による選考で受賞作品を決め、ささやかではあるがオリジナルグッズをプレゼントしたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

個人的にゴミは悪戯するし、繁殖期になったら上から威嚇されるし、決して個人的にはカラスに対して良いイメージを持っていないが、この企画の趣旨はもっと上手にカラスと付き合い合っていきましょうというねらいで実施されるということか。

(佐藤博物館長)

そうである。生態を紹介する事によって、どういう関わりをしていたら襲われないかというコーナーもあるし、学芸員向けにカラスに関する質問コーナーも展示の中で企画しており、そこに回答が出てくるというようなものも考えている。

(山口委員)

カラスマスターへの道という事で参加費が50円だが、博物館のいろいろな活動に参加している友の会の子どもをターゲットにして集まるだろうという見通しか。

(佐藤博物館長)

50円は野外活動も含むので、傷害保険料としていただいている。参加される方については、友の会の方だけを考えているわけではなく、ホームページ、SNS、広報くしろ、遊びや学び等で情報発信して広く募集をかけている。また、ちらしやポスターもまなぼつと等の公共機関や商業施設等も掲示していただいで皆さんに広く来ていただければと思っている。状況によってはプレスリリースを流したり、野鳥の会や関係しているところに、メーリングリスト等を使って声かけをしようと思っているが、比較的、野鳥、鳥のイベントは人が集まり易いので、たくさん来ていただけると思っている。

【公開案件】報告事項

(6) 動物園におけるドローンを用いた記念動画撮影事業について

(古賀動物園長)

動物園では、集客のための新たな客層開拓について、k-Bizに相談をしていたところ、ドローンのリースや撮影を手がけている東京の企業と市内の事業者との協働実施による、ドローンを用いた記念動画撮影事業が提案された。ドローン空撮による記念動画は、聞き込みによると台湾など海外からの観光客が関心を示しており、また国内の動物園ではまだ取り組まれていない事業であることから、話題性が高く、SNSを通じた釧路市動物園の認知度向上に繋がると考えている。

撮影場所については、航空法の規制、動物への影響、また釧路市動物園の雰囲気伝えるロケーション等から検討を行い、サル山を選んだ。撮影については、観光旅行団体からの事前申込みで受け付けるほか、土日祝日や動物園行事に併せて実施する計画で、収益の一部を動物園整備基金に寄附されることが検討されている。

現在、7月の夏休み頃からの試験的運営の開始に向けて準備を進めているところである。動物園では、この協働事業を多くのお客様にご利用頂き、SNSで動画を発信していただくことで動物園の魅力を広く世界に発信していきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

PR動画を作るのではなくて、お客さんが動物園にいて、そのお客さん込みで上空から撮影したものを自分のツイッター等でアップして、動物園に行ってきたらこんない事があった、私は今、釧路市動物園にいます。など、SNSでのPRを期待しているということか。

(古賀動物園長)

そうである。特に中国は日本で使っているフェイスブックが使えないので、各自中国の方が自分の国内で使えるSNSの発信でやらないと広がらないことがある。実際に来ていただいた方に、安く提供する事によって、SNSで流してもらって、どんどん集客していきたいと考えている。もちろん、市民の皆さんにも利用していただきたいと思っているので、それも土日祝日やりたいと考えている。

(岡部教育長)

料金体系はどうなっているのか。

(古賀動物園長)

料金はまだ決定していないが、k-Bizの方では一人あたり1,000円から1,500円を考えているようである。その時は、市民は500円くらい、と言っていた。

(種村委員)

頼むときは、どこか業者に頼むのか。

(古賀動物園長)

そうである。ドローンについては、東京の一番有名なドロサツ！！という会社が関与している。撮影自体は市内のアクト・クレオという会社の方が実際に撮影するということである。

(小出委員)

データのやり取り、動画のデータをもらう方法はどのようなものなのか。

(古賀動物園長)

スマートフォン同士なので 아이폰の場合は、エアドロップでそのままデータを送り、アンドロイドの場合はカードを使ってそのまま転送する形をとる。

(小出委員)

撮ったらすぐ、もらえるのか。

(古賀動物園長)

そうである。

(岡部教育長)

この画像の著作権は会社、個人どちらに寄与するのか。

(古賀動物園長)

会社である。買った個人は、情報を発信してもらうのが目的なのでそこは、おそらく会社側は異論はないと思う。確認する。

(松尾委員)

映りたくない人が傍にいて映ってしまったという、問題などは大丈夫なのか。

(古賀動物園長)

声掛けをしていくので、映りたくない方は離れてもらう。かなり上空から撮るので顔は判別できないのではないかと。

(松尾委員)

猿山以外は考えられないのか。

(古賀動物園長)

最初、いろいろなところを考えた。一番うけるのはホッキョクグマを考えたが、砂がすごく嫌がるだろうという事でやめた。また、航空法で第三者から30メートル離せという指示があるので、そういう場所を考えると猿山しか残らなかった。

【公開案件】 報告事項

(7) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

初めに定例教育委員会と市政懇談会について報告する。

特に市政懇談会については、初めて教育分野の「学力向上に係る施策」が取り上げられた。新しい教育委員会制度の下、市長が教育分野も説明することになったことを校長に伝えるとともに、配布された資料が対外的に出ていることを伝えている。

次に「少年の主張」について報告する。

6月1日(土)に釧路市大会があった。どの生徒もしっかりとした素晴らしい感性で、内容も発表も優れており、審査では僅差での受賞となった。ご指導いただいた先生方に感謝を申し上げる。なお、最優秀賞の北中学校の及川さんには釧路総合振興局地区での健闘をお祈

りする。また、審査員をお引き受けいただいた松尾委員、ありがとうございました。

次に「スクールバス」等の安全確保について報告する。

未然防止が難しい事故や事件が続いているが、各学校では各学校の状況に応じて対処するようお願いしている。市教委では釧路警察署生活安全課にスクールバスの運行経路や時刻等の情報を提供しパトロールの強化をお願いしている。

最後にセンター講座について報告する。

7月18日（木）に採用2年目の研修が予定されていたが、この日に教育局が採用2年目の研修を入れてしまったので市の研修講座の日程を移動せざるをえない状況となっている。校長会直前の状況だったので、口頭にて校長先生方には周知をしている。講師を引き受けていただいている、山口委員には大変申し訳ありませんが日程の変更をお願いしたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

1点目の校長会で教育委員会制度が変わったので、こういう意見が市長や教育委員の方から出ている、という校長先生へのPRはすごく大切な事だと思う。やはり教育委員会制度が変わっても、学校現場にとっては、他人事というか直接自分達には関わりがないのだろうという受け止め方をする節も、無きにしも非ずかと思うが、制度が変わって具体的にこういう形に少しずつ変わっていますよと、こういう考え方も学校の教育活動の中では、あるいは学校経営の中では考慮していかなければならないという情報発信はすごく大切な事だと思う。

次に少年の主張について、釧路市大会に参加させていただき、本当に素晴らしい発表だったと思う。講評してくれた阿寒小学校の須藤校長先生は、初めての経験だったにも関わらず、なかなか良い講評だった。非常に説得力もあったし、分かりやすかった。機会があったら、須藤校長先生にも良かったですと伝えていただきたい。

釧路の子ども大集合など、出来るだけ同年代の子どもたちに、私と同年代の人がこんな素晴らしい考え方をしている、堂々と自分の考え方を皆に伝えている、という同年代に対するいい刺激をどのように今後膨らませていけるのか、そのあたりも工夫していただければと思う。

（岡部教育長）

私も同様に、もっと多くの人に意見を聞いていただきたいと痛感した。

（小出委員）

くしろキッズタウンについて、去年業者の方がアレルギー対応について少し勘違いをされていたという事があったので、今年度はお互いに確認しあって間違いがないようにやっていただけたらと思う。

（北澤学校教育部次長）

その件に関して、全部主催者の方に伝えており、今年はそば屋さんが出ないという事で、代わりにうどん屋さんになったので、その部分では心配はない。

(松尾委員)

少年の主張の審査をさせていただき、点数つけるのが難しいくらいあまり差をつけられないような状況があった。休憩時間に審査員の先生方とお話をした時に、やっぱり個人の好みだから仕方ないと言いながら、しかしなんとなく集中して点数が同じ人のところにいっているんだな、私も結果を見て、ああそうなんだと思った。身近な本当の自分の体験とか、そういうものであれだけ上手にお話するという事は素晴らしい事だと思ったし、先ほど教育長が言ったように、応援団がほしいなと思った。実際、学校で練習のような形で皆の前で発表するみたいだが、そうだとしたらそれを聞いた仲間が当日、応援に来てくれたらいいなと思うし、本当に家族だけしかいないのかと客席の方は思うので、子ども大集合と同じように、少しずつ人を増やして行って大ホールを使えるようになったらいいなと思った。